

e スポーツでいい街づくり

～誰一人取り残さない健幸都市を目指して～

愛媛大学法文学部人文社会学科福井ゼミナール(指導教員 福井秀樹)

代表者：渡部さくら

発表者：井上奈緒、福良瞳、藤本奈那、渡部さくら

参加者：井上奈緒、寺山瑚桃、福良瞳、藤本奈那、渡部さくら



目次

一 持続可能なまちづくり

1 テーマ定義

二 現状分析

1 上田市の総人口

2 移住人口

3 上田市の国内からの交流人口

4 上田市の海外からの交流人口

5 上田市が開催するスポーツイベントと市民の現状

6 課題と特徴

三 プラン概要

1 e スポーツに注目した背景

2 ターゲット

3 e スポーツに対する様々な観点からの実際の声

4 会場と時期

5 大会の内容

四 具体的な数値計算と将来性

1 e スポーツ実施のために必要な準備と経費

2 経済効果の算出

3 e スポーツ大会の開催による効果

4 e スポーツ大会開催の持続可能性と将来性

5 前半部分のまとめと後半

五 観光需要の調査

1 「田舎」が注目を浴びている根拠

2 国内のニーズに応える観光プラン

3 国外のニーズに応える観光プラン

4 外国人への聞き取り調査

5 聞き取り調査の結果

六 持続可能な観光プラン

1 別所温泉

2 スタンプラリー

3 「スタンプウォーズ」ルール

七 総括

梗概

「人口減少時代の持続可能なまちづくり」というテーマに基づき、私たち愛媛大学福井ゼミナールが提案するのは、「eスポーツ」を活用した、年齢・性別・国籍・障がいの有無に関係なく誰もが参画できる社会を作る「eスポーツでいい街づくり ～誰一人取り残さない健幸都市を目指して～」である。私たちのプランは、人口基盤確保のきっかけとなり得る交流人口の増加を実現し、上田市全体が健康で活気のある場所となる「健幸都市上田」を実現することを約束する。

上田市の現状として海外からの留学生や技能実習生が多いことが挙げられる。インバウンド増加の社会の動きとも相まって、今後も外国人の数が増加することが予想される。私たちは、より高次の共生社会を実現し、誰もが住みやすい場所となる上田市を築きたい。様々な国から、英語ではない言語を母国語とする外国人が上田市に集まっているという状況から、多文化間の円滑なコミュニケーションの実現によって、共生社会を築くことができると考えた。そこで、言語の壁を越えて人々とのつながりを構築できるスポーツに着目し、スポーツの中でも近年注目を浴びており、誰もが取り組みやすい「eスポーツ」を提案する結論に至った。

eスポーツの大会を上田市で開催し、交流人口の拡大と共に、「スポーツの上田」として世界に知名度を向上させる。具体的には、eスポーツ大会の種目をスキー、開催場所を菅平高原に設定し、スキーと上田市を同時に発信する。そうすることで、上田市の知名度を向上させる契機となりうる。将来的には、eスポーツのスキー競技をオリンピックeスポーツシリーズの公式種目にすることで、菅平ブランドを世界水準で確立することを目指す。そして、「上田市に行ってみよう」という動機づけを人々の中に創造し、私たちが論文の後半で提案する「観光プラン」によって訪れた観光客の上田市の魅力を伝える。

本プランは、共生社会実現による「既存住民にとっての住みやすさ」、知名度やブランド力向上、観光プランによる「持続的な観光客数の創出」を実現する。人口流出の防止と交流人口の継続的な創出という2つの観点から、人口減少対策に取り組む内容となっている。

一 持続可能な街づくり

1 テーマ定義

『持続可能な街づくり』それは、産業が停滞することなく維持し続ける社会だと定義づける。産業を発展させていくための人口基盤の確保、すなわち人口減少対策が持続可能な街づくりには必要不可欠であると考えた。

人口創出には、観光学の観点から定住人口・交流人口・関係人口増加の3つのアプローチがある。長野県は、宝島社発行の『田舎暮らしの本』2022年版「移住したい都道府県」ランキングで、長野県が第1位となっており（過去16年連続）、定住人口の観点では人口増加の期待値が高い。また、ふるさと回帰支援センターの統計（表1）を見ても、過去5年で上位を保っており、期待値が高いことが伺える。関係人口についても、2023年の関係人口数は全国ランキングで10位（表2）と高い値である。そこで私たちは、相対的に全国順位が低い「交流人口」に注目した。コロナ後は旅行需要の回復やインバウンドの増加が見込まれており、社会の交流人口に対する期待値が高い。本プランでは、観光客数の増加の観点から交流人口の増加に焦点を当てている。

具体的には、大きなイベントの開催（eスポーツ大会）を起爆剤とした訪問の契機の創出、交流人口の大幅な増加を見込んでいる。大会の開催で、観光需要や雇用の創出による地域経済の活性化、多文化共生社会を実現する。加えて、大会の参加者時だけではない、持続的な観光需要を喚起するための菅平ブランドの向上と街の魅力を発信する観光プランを提案する。本論文の前半では、上田市の現状分析、eスポーツ大会の内容、経済の活性化、将来性について述べる。後半では、持続的な観光の在り方についての分析、上田市に既に確立されている「聖地巡礼ブランド」を生かした、持続可能な観光プランを提案する構成となっている。

ふるさと回帰支援センター 移住希望地ランキング（2017-2022:暦年）

※（ふるさと回帰支援センターへの相談者・セミナー参加者、複数回答） n=回答件数
 新型コロナの影響でセミナー等がオンライン開催となり、一部セミナーの参加者が急増したため、それまでの調査実態との乖離を防ぐ目的で、「窓口相談者」と「セミナー参加者」を分けて発表しています。

2017年		2018年		2019年		2020年				2021年				2022年		2022年			
						<相談>		<セミナー>		<相談>		<セミナー>		<相談>		<セミナー>			
順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名	順位	都道府県名		
1位	長野県	1位	長野県	1位	長野県	1位	静岡県	1位	和歌山県	1位	静岡県	1位	広島県	1位	静岡県	1位	広島県		
2位	山梨県	2位	静岡県	2位	広島県	2位	山梨県	2位	広島県	2位	福岡県	2位	愛媛県	2位	長野県	2位	新潟県	2位	新潟県
3位	静岡県	3位	北海道	3位	静岡県	3位	長野県	3位	佐賀県	3位	山梨県	3位	長野県	3位	栃木県	3位	愛媛県	3位	愛媛県
4位	広島県	4位	山梨県	4位	北海道	4位	福岡県	4位	静岡県	4位	長野県	4位	北海道	4位	山梨県	4位	長野県	4位	長野県
5位	新潟県	5位	新潟県	5位	山梨県	5位	宮城県	5位	長野県	5位	群馬県	5位	福島県	5位	福岡県	5位	静岡県	5位	静岡県
6位	福岡県	6位	広島県	6位	福岡県	6位	広島県	6位	北海道	6位	広島県	6位	静岡県	6位	広島県	6位	北海道	6位	北海道
7位	岡山県	7位	福岡県	7位	新潟県	7位	北海道	7位	山梨県	7位	宮城県	7位	和歌山県	7位	宮城県	7位	高知県	7位	高知県
8位	福島県	8位	富山県	8位	佐賀県	8位	和歌山県	8位	愛媛県	8位	岐阜県	8位	佐賀県	8位	和歌山県	8位	和歌山県	8位	和歌山県
9位	宮崎県	9位	宮崎県	9位	高知県	9位	神奈川県	9位	新潟県	9位	栃木県	9位	新潟県	9位	群馬県	9位	福島県	9位	福島県
9位	富山県	10位	福島県	10位	愛媛県	10位	群馬県	10位	福島県	10位	神奈川県	10位	群馬県	9位	神奈川県	10位	富山県	10位	富山県
11位	愛媛県	10位	佐賀県	11位	大分県	10位	岐阜県	11位	岩手県	11位	福島県	11位	山梨県	11位	岐阜県	11位	岩手県	11位	岩手県

表 1 長野県への移住希望人口（出典：ふるさと回帰支援センター）

順位	都道府県	関係人口
1	福島県	1,229万人
2	沖縄県	950万人
3	北海道	756万人
4	東京都	670万人
5	大阪府	440万人
6	熊本県	420万人
7	宮城県	390万人
8	福岡県	367万人
9	静岡県	331万人
10	長野県	313万人

表 2 全国ランキング 関係人口（出典：ダイヤモンドオンライン）

二 現状分析

1 上田市の総人口

上田市の人口は現在 156,827 人であり、ピークであった 2000 年の 166,568 人に比べるとマイナス 9,741 人と大幅に減少している。また、2045 年には 127,840 人と減少の一途を辿ることが推計されている。(表 3)

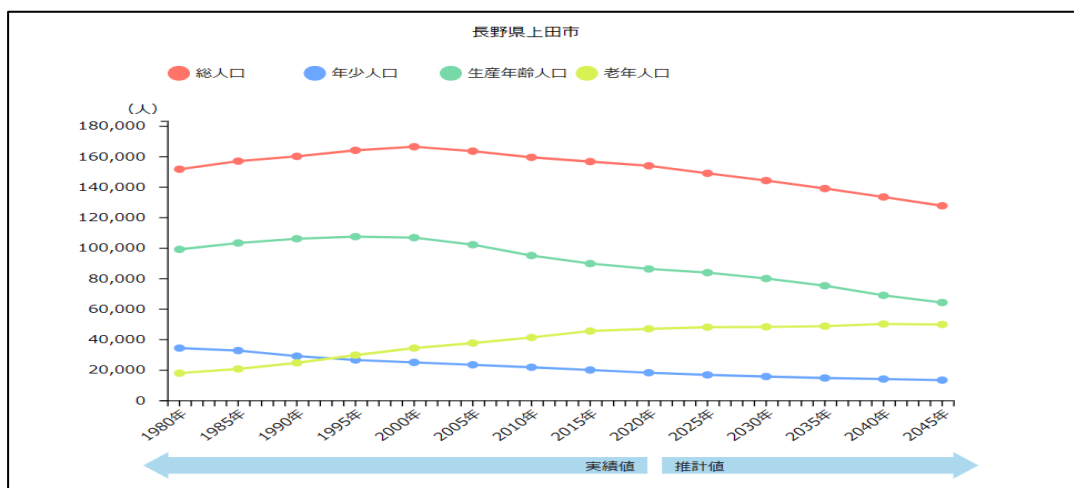


表 3 上田市の人口構成 (出典: RESASS 地域分析システム)

2 移住人口

2013 年 12 月 31 日現在の上田市における外国籍市民数は 3,311 人(2023 年現在は 4118 人)であり、長野県内において 3 番目に多く、人口に占める外国人の割合は 2.1%と(2014 年)他の地域と比較して外国籍市民が最多である。長野県全体で見ると、中国やブラジルからの移住が多く、定住化が進んでいる。外国籍市民数は国の法改正により、平成 31 年 4 月から外国人労働者の受け入れが拡大したため、今後も増加することが予想されている。

3 上田市の国内からの交流人口

令和 4 年における上田市の観光客数は 5,807 人(表 4)で、県内からの利用者は 53.4%、県外からの利用者は 46.6%(表 5)となっている。そのうち、日帰りは 76.9%、宿泊は 23.1%(表 5)である。令和 2 年から 4 年の季節ごとの観光客数に着目すると、夏季休業シーズンである 7 月から 9 月が最も多い。(表 6)また、観光先として最も人気があるのは上田城跡であり、令和 4 年の利用者数は 126,1400 人で、4 月が最も多く、続いて 8 月が多くなっている。2 位は 724,200 人の菅平高原、3 位は 498,000 人の別所温泉(表 7)である。菅平高原の特徴として県外からの観光客が多いこと、日帰りよりも宿泊者数が多いことが挙げられる。ラグビーやサッカーの合宿が盛んになる 7 月、8 月の利用者が多い傾向にある。別所温泉は、一年を通して平均的に観光客が訪れているという特徴が見られる。

区 分	令和2年		令和3年		令和4年		対前年 増減	対前年 増減比
	延利用者数	構成比	延利用者数	構成比	延利用者数	構成比		
東 信 州	13,452	26.1	14,406	27.4	18,933	25.1	4,527	31.4
佐 久	9,426	18.3	10,320	19.6	13,126	17.4	2,806	27.2
上 田	4,025	7.8	4,086	7.8	5,807	7.7	1,721	42.1

表 4 上田市観光客数（出典：観光地利用者統計調査結果令和4年）

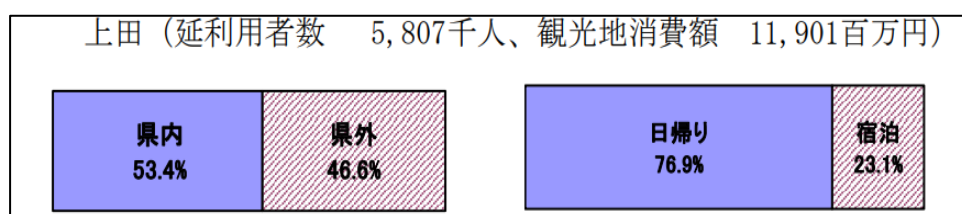


表 5 上田市観光状況（出典：観光地利用者統計調査結果令和4年）

	R4/R3比	07.7	70.0	70.0	200.0	300.1	309.0	110.7	172.0	100.7	109.0	120.0	117.0	120.7	177.0
上田	R4年	606	429	1,034	861	620	1,481	951	1,048	1,999	686	607	1,293	3,103	2,704
	R3年	490	343	832	530	302	832	674	603	1,276	630	515	1,145	2,324	1,762
	R2年	613	589	1,202	275	144	419	717	570	1,287	592	526	1,119	2,197	1,828
	R4/R3比	123.6	125.1	124.3	162.3	205.5	178.0	141.2	173.9	156.7	108.8	117.9	112.9	133.5	153.5
	R4/R2比	98.8	72.8	86.1	313.0	431.8	353.8	132.7	183.9	155.4	115.8	115.4	115.6	141.2	147.9
	R4年	100	100.1	100.1	75.0	60.0	60.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 6 地域振興局別、月別延泊利用者数：上田（出典：観光地利用者統計調査結果令和4年）

上田市	信濃国分寺	4	911
		3	854
”	上田城跡	4	12,614
		3	7,090
”	信州の鎌倉・塩田平	4	2,104
		3	1,618
”	別所温泉	4	4,980
		3	3,719
”	丸子温泉郷	4	2,891
		3	1,923
”	信州国際音楽村	4	300
		3	258
”	菅平高原	4	7,242
		3	2,631
”	角間温泉	4	344
		3	80
”	美ヶ原高原	4	4,143
		3	3,417
”	真田氏ゆかりの地	4	210
		3	153
”	シャトー・マルジャン	4	211
	椀子ワイナリー	3	163

表 7 上田市観光地別来客数 左観光地 右観光客数（出典：観光地利用者統計調査結果令和4年）

4 上田市の海外からの交流人口

次に、インバウンドに着目する。上田市に訪れる外国人観光客は2016年まで増加傾向にあったものの、2017年から減少傾向にある。一方で外国人延宿泊者数は年々増加している。(表8) 国籍別にみるとオーストラリア、台湾、中国、香港、アメリカの順に観光客数が多い。(表9) 上田市政策企画課の方に上田市のインバウンドの課題をお聞きしたところ、「世間で注目されている体験型のキラコンテンツが少ない、広域にまたがるルートプランが整備されていない」ことが分かった。外国人の観光ニーズにも応えるプラン(論文後半詳述)により、長野県の主要都市(長野市、松本市、軽井沢)と比べてインバウンドが少ないという状況を打破することを期待している。

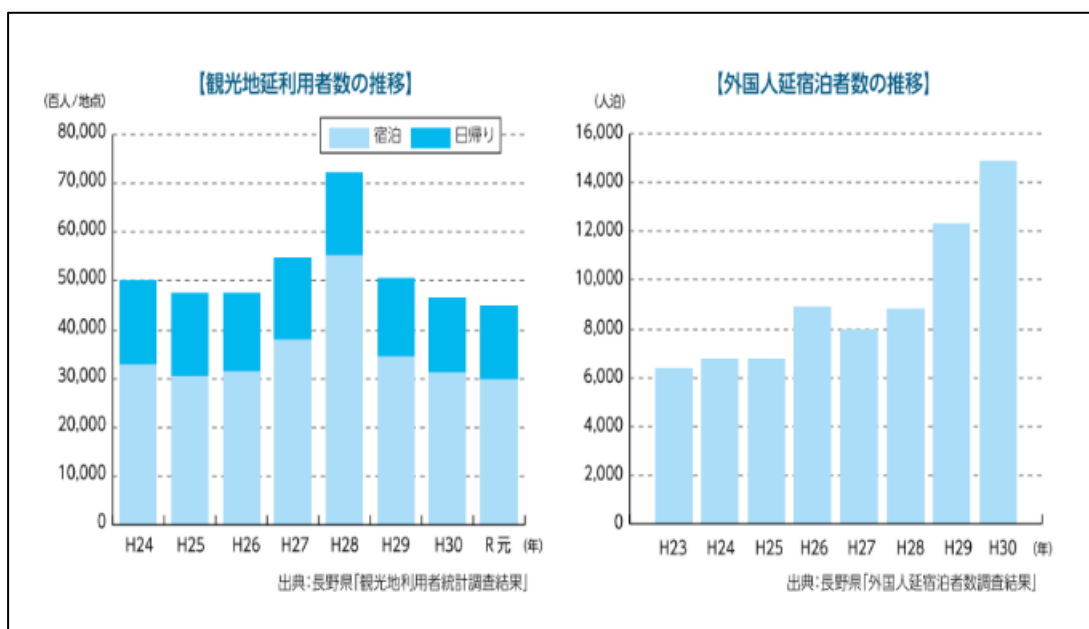


表8 観光地延利用者数の推移、外国人延泊者数の推移 (出典：長野県 観光地利用者統計調査結果)

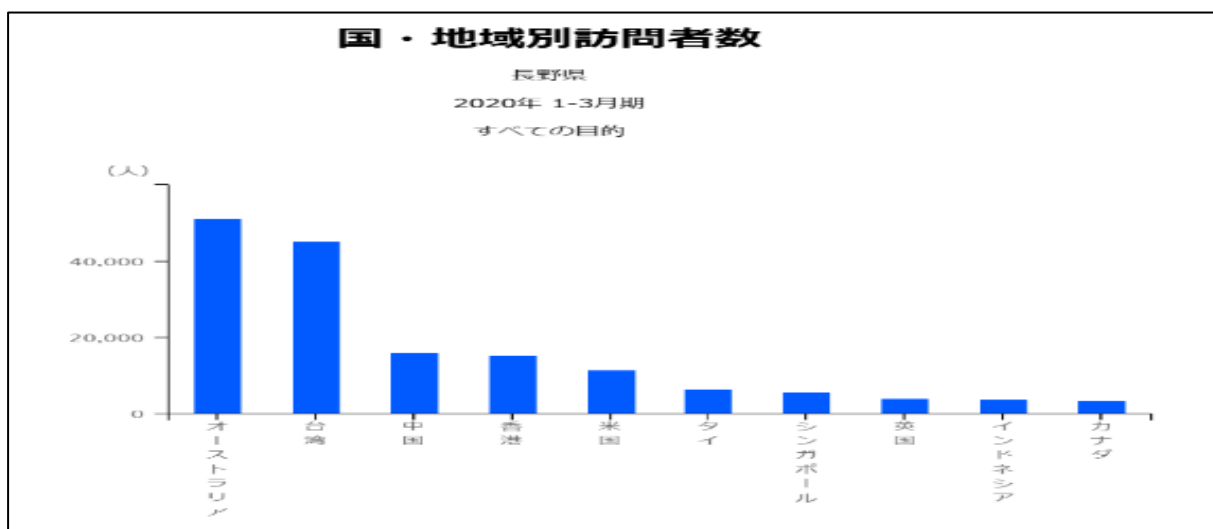


表9 長野県上田市 国別外国人訪問者数 (出典：RESASS 地域分析システム)

5 上田市で開催されているスポーツイベントと市民の現状

上田市は、スポーツに力を入れていることもあり、スポーツ推進課を中心に「する」「みる」「ささえる」という多様な面からスポーツに参加できるイベントが数多く開催されている。イベントは、親子スポーツフェアや上田市少年少女サッカー大会など、性別を問わず幅広い世代の人々が楽しめるものである。その他にも、スカイライントレイル菅平や太郎山登山競争、信州爆水 RUN in 依田川など、上田市の豊かな自然環境を活かしたスポーツイベントも行われている。しかし、「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画」によると、上田市民のスポーツ満足度は7.9%と非常に低い現状にある。また、現在の上田市のスポーツ環境について、「わからない」との回答が43.5%（表10）もあり、市民へのスポーツ環境の周知とともに、スポーツへの関心を高めるための施策が大きな課題だと考えられる。

6 e スポーツの現状

県内で最も取り組みが盛んな長野市では、2019年のNAGANOe-SPORTS Festivalで200名、2022年の日本一の大縁日eスポーツの祭典 in NAGANOでは5000名の観客導入を成功させている。長野県eスポーツ連合の方にeスポーツの需要についてお聞きしたところ、「上田市周辺からのeスポーツに関する問い合わせが数件ある」とご回答いただき、上田市民にeスポーツの需要があるということが分かった。上田市ではeスポーツイベントを今までに実施していないが、潜在的な需要があるので、大会の誘致は成功すると考察できる。実際に、上田市政策企画課の方より「eスポーツの活用について現時点では市として検討は進んでいないが、観光誘客や関係人口の創出の1つの手段になることを期待している」とご回答をいただいている。

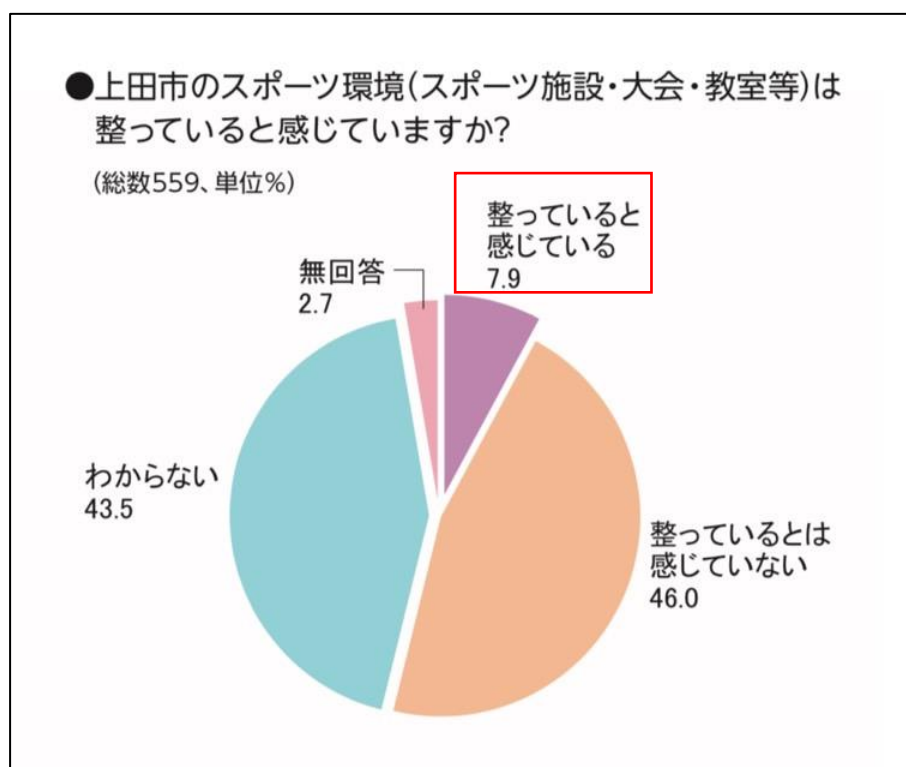


表 10 上田市民のスポーツ環境満足度（出典：上田市スポーツ推進計画）

6 課題と特徴

上田市の現状分析から、急速に進む人口減少は深刻な課題であると考えられる。また、他地域と比べて移住者の割合が多い特徴が見られる。上田市の社会増減数に着目すると、2016年には537人増、2017年には413人増、2018年には592人増（表11）と、長野県全体と比較して移住者が多いことが分かる。

その中でも外国人転入者数の割合が高い。その理由として、外国人が日本語を学ぶ環境が整えられていることや雇用先が充実していることが考えられる。外国人に学ぶ環境を提供する「専門学校長野ビジネス外語カレッジ」の生徒数は290人、そのうち日本語を学ぶ生徒は215人であった。また、無償で日本語教室を提供する上田市多文化共生推進協会（AMU）の花村様にお話を伺ったところ、生徒数は令和5年度9月末の時点で大人が29名、子供が8名、中国やインドをはじめ15の国籍を持つ学習者が学習している。週によって多少の変動はあるものの、平均的に週15回の授業が行われており、ほとんどが1対1の学習である。聞き取り調査の中で認識した課題としては、生徒に対して講師の数が不足していること、母国語が異なることから複数人数での学習が難しいことが挙げられる。

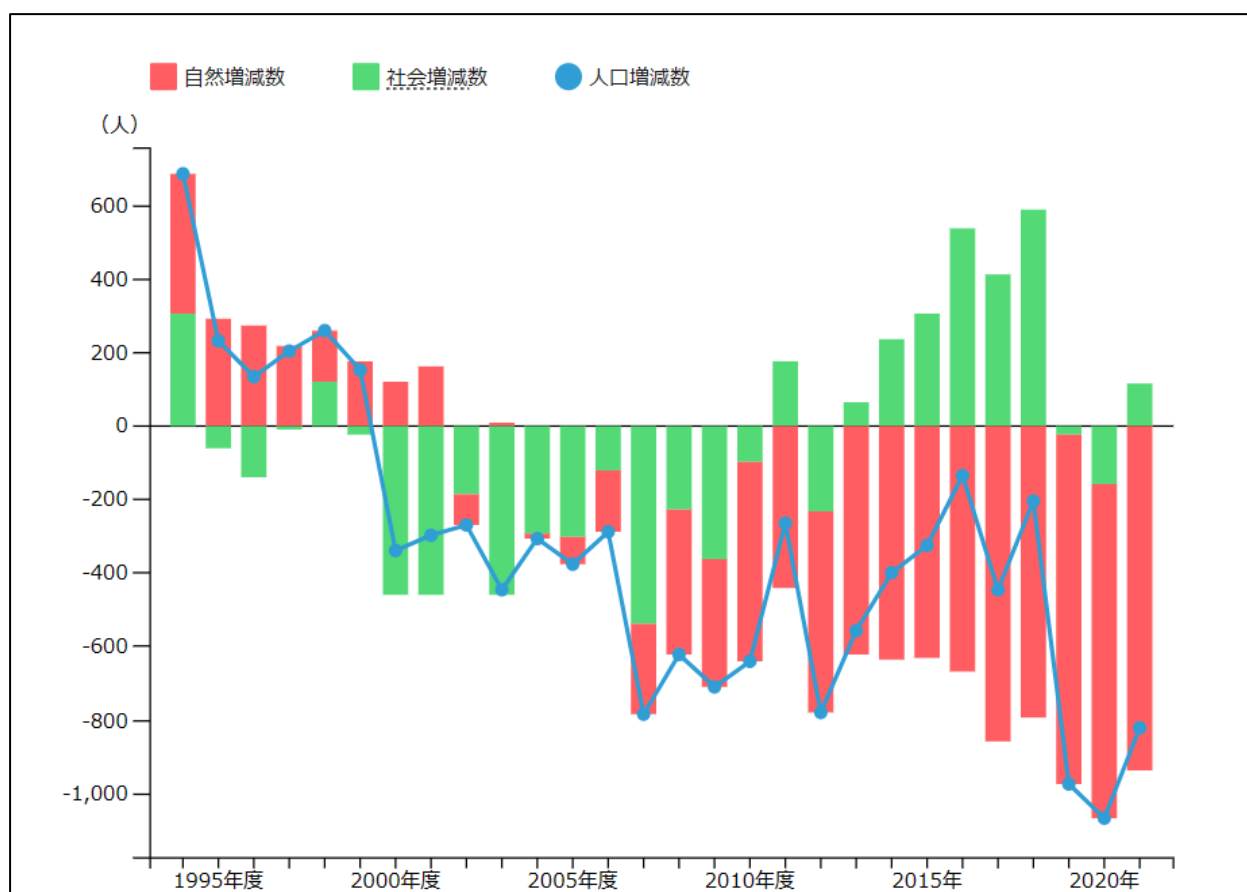


表 11 上田市人口増減数（出典：RESASS 地域分析システム）

三プラン概要

1 e スポーツに注目した背景

e スポーツに注目した背景は主に2つある。

1つ目は、上田市には特定のスポーツ競技者にとっては聖地である「菅平高原」を有していることだ。菅平高原では、過去に長野県スキー選手権大会などの大会が行われ、ラグビーの夏合宿の聖地としても有名である。令和四年には、72万人もの人が利用している。菅平ブランドを生かしたプランを考えたいという思いが、e スポーツ大会の開催を提案する背景にある。また、2028年長野国民スポーツ大会の開催や上田市の「スポーツ都市宣言」など、市民行政共にスポーツに対する気運が高まっていることから、私たちは、菅平ブランドをさらに広め、日本中、世界中から交流人口を増やすことでスポーツと共に上田市を盛り上げたいと考えた。

2つ目は、長野県は日本一の長寿県という健康面、オリンピックの開催やスポーツ実施率全国2位というスポーツ面から日本有数の先進県であり、健康のためのスポーツを広める役割を担うのに最適であると考えたことだ。スポーツ庁の統計によると、長野県民の、健康を維持するのに必要な週に3日以上スポーツ実施率は全国平均と比べて約7%高く、全国で2番目に高い数値である。しかし、上田市民のスポーツ実施率は、長野県の平均よりも低く、全国平均よりも低いという現状が明らかになった。(表12)日本全体を見ても、週3日の適度な運動を実施しているスポーツ人口は30%と依然少ない。(表13)スポーツは、日本人の死因3位の生活習慣病予防に貢献し、年間約5万人にもものぼる生活習慣病による死亡者数(表14)を減少させることが可能となる。また、スポーツは認知症の予防に効果的だという論文も発表されており、健康寿命を延ばすためにスポーツは効果的だ。私たちは、人々の健康増進のため(表15)にスポーツ人口を増加させたいと考えており、スポーツに関してブランド力のある長野県上田市からスポーツの魅力を市民や国民に発信していくことの価値を感じている。

●年代別のスポーツ実施状況

年代	週に5日以上	週に3日以上	週に2日以上	週に1日以上	月に1~3日	3か月に1~2日	年に1~3日
10代	22.2%	33.3%	11.1%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%
20代	8.5%	13.4%	7.3%	11.0%	24.4%	19.5%	9.8%
30代	6.0%	7.5%	10.4%	13.4%	26.9%	23.9%	10.4%
40代	7.8%	10.9%	3.1%	18.8%	28.1%	18.8%	4.7%
50代	5.4%	13.5%	17.6%	21.6%	12.2%	10.8%	12.2%
60代	9.2%	23.0%	21.8%	19.5%	10.3%	2.3%	4.6%
70代	11.4%	25.0%	18.2%	13.6%	12.5%	6.8%	1.1%
合計	8.6%	16.7%	13.6%	16.3%	17.9%	12.3%	7.2%

※表中の値は、「1年間にスポーツをした」と回答した者に対する割合

●スポーツ実施率

頻度別スポーツ実施率		備考
週に1日以上	全世代	47.9%
	成人	47.1%
週に3日以上	全世代	22.0%
	成人	21.2%

※スポーツ実施率は、全回答者に対する割合

出典：上田市民のスポーツに関するアンケート調査

表 12 年代別のスポーツ実施状況・スポーツ実施率（出典：上田市スポーツ推進計画）



表 13 男女別成人スポーツ実施率（出典：スポーツ庁）

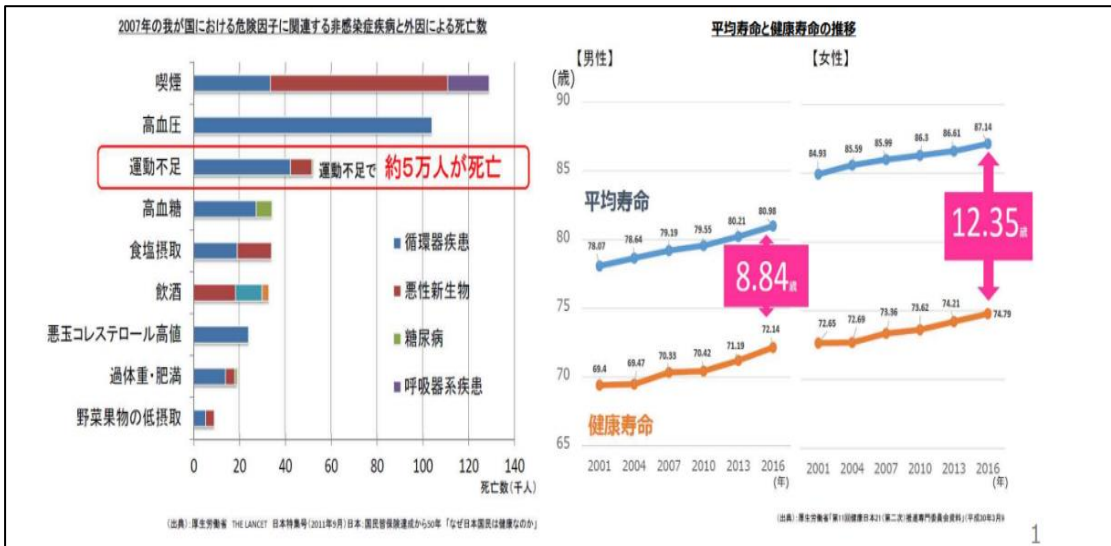
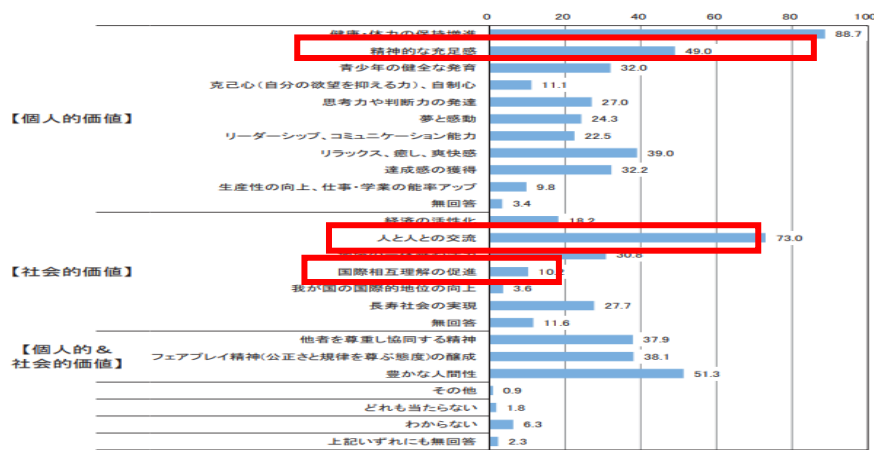


表 14 日本人の死亡原因ランキング、平均寿命と健康寿命の推移

（出典：厚生労働省 THE LANCET：国民皆保険達成から50年「なぜ日本国民は健康なのか」、「第11回健康日本21(第二次)推進専委員会資料」）

●スポーツが個人や社会にもたらす効果について、あてはまるものはどれですか？
（総数559、複数回答、単位％）



出典：上田市民のスポーツに関するアンケート調査

表 15 スポーツが個人や社会にもたらす効果（出典：上田市スポーツ推進計画）

2 ターゲット

本プランのターゲットは「誰一人取り残さない」を合言葉に、全ての上田市民、全ての長野県民、全ての日本国民、そして世界の人々をターゲットとする。包括性を裏付ける根拠として、第1に外国人参加者、第2に障がい者の参加者を説明する。

第1に、外国人について、上田市は、外国人転入者の割合が高いという特徴を踏まえ、外国人を街全体で支えるコミュニティづくりを実現したいと考えた。上田市には、AMU やその他団体による日本語教育、交流イベントが充実しているが、聞き取り調査の結果、外国人の母語によってはコミュニケーションが困難であるなどの課題も残っていることが分かった。そこで、言語の壁を越えて繋がれる何かが存在すれば、より多文化共生社会に近づけるという思いから、言語の障壁も超えられるeスポーツによって、外国籍市民を取り込んだ新たな多文化共生の交流の場を提供し、誰もが住みやすい街づくりの実現することを目指している。

第2に、障がいのある方を取り上げた理由は、eスポーツは障がいのあるなしに関わらず一緒に行うことができるからだ。文部科学省によると、障害者スポーツは、スポーツに苦手意識を持つ子供や高齢者等も参加可能で障害のある人もない人も共に実践できるスポーツとしての可能性があることが示されている。また、障害者スポーツの推進は、障害者の生きがいや生活の質の向上、地域社会の活性化、健康長寿社会や共生社会の構築に繋がることが実証されており、障がい者スポーツの重要性が伺える。

実際に、上田市内の身体障害者手帳所持者は6,900人、療育手帳所持者は1,409人、精神障害者保健福祉手帳所持者は1165人となっており、身体、知的、精神の3障害とも増加傾向にある。これらの人数を合計すると、9,474人となり、市の全人口の6%、つまり上田市民の約16人に1人が何らかの障害を有していることが分かる。このような状況から、障がいを抱えている方もそうでない方も共に参加できるeスポーツを実施することは、誰一人取り残さない健幸都市を目指すために有益だと考えた。(表16)

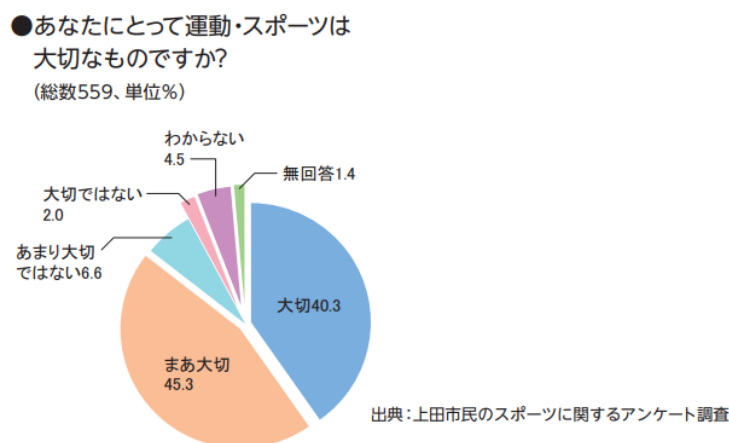


表 16 運動・スポーツの重要性 (出典：上田市スポーツ推進計画)

3 e スポーツに対する様々な観点からの実際の声

- ・引きこもり就業者支援の方の声

「社会との接点を持つという点で、効果的である。何らかの原因で社会参画が困難になった人でも、スポーツを通して社会に復帰できる可能性がある。自治体が先導してそのような機会を設けてくれることは、大変ありがたい。」

- ・障がい者支援者である愛媛大学教育学部特別支援コースの大学生の声

「障がい者はスポーツが苦手である、と思われがちだが、コミュニケーションを取る手段としてとても有効である。肢肢不自由の特別支援学級でも、e スポーツへの参加を積極的に呼びかけている。」

- ・福祉の観点でe スポーツを導入している愛媛県観光スポーツ文化部の方の声

「e スポーツが障がい者の生きがいつくりや社会参加の促進に繋がるという現場の声を聞き、e スポーツ実施にあたっての初期投資のハードルを下げるために何かできないかということで、愛顔 e スポーツ (e スポーツを促進する場) を設立した。障がいの有無に関係なく実施できる e スポーツを通じて、障がい者の生きがいつくりや社会参加の促進、健常者との交流を通じた相互理解による共生社会の実現の効果を実感している。」

- ・e スポーツを愛媛県愛南町の地域おこしに活用した、松山大学檀教授の声

「地域活性化の十二分な理由となる。イベントや大会を開けば交流人口の増加はもちろん、自治体と市民の方々の人口減少対策の成功体験となり、地域の活力の向上に繋がる。」

- ・高校教師でサッカー部監督であり、国体でe スポーツのチームを率いた教員の声

「e スポーツの利点は、年齢性別に関係なく全ての人と一緒にプレイできること。リアルサッカー未経験のお年寄りでも海外の強豪チームに勝つことが出来るという面白味がある。身体的な問題でリアルサッカーが難しい方が、スポーツに触れることが出来る。スポーツの普及にも貢献することが出来る。」

- ・リアルサッカー経験者であり、e スポーツも経験した友人の声

「ゲームではあっても、チーム内でのコミュニケーションが大切だった。リアルサッカーと違い、競技者3人で11人を動かす必要があるため慣れるまでに時間がかかった。ゲームでは、上から見た画面での操作になるため、リアルサッカーでは見えない位置からの景色が見えたのでリアルサッカーにも生かすことができた。」

4 会場と時期

- ・会場：菅平林間学校

詳細：「政府登録国際観光ホテル菅平プリンスホテル」の方より、プランが実現した際には会場を貸していただけると回答をいただいた。

- ・開催時期：春または秋を予定

理由：宿泊客のピーク期は夏と冬で、閑散期は春と秋。閑散期にイベントを実施することで継続的な交流人口の創出に繋がる。

- ・収容人数：250名
- ・面積：1万坪
- ・貸切の値段：一人当たり3食付きで8000円～
- ・上田駅からの交通手段：路線バス

5 大会の内容

私たちは、VRを使ったeスポーツのスキージャンプ大会を提案する。大画面のスクリーンを共有し、チーム戦でスキージャンプの飛距離を競う。会場にはスキー板を用意し、VRを装着して画面を見ながらタイミングに合わせて手持ちのボタンを押すと飛ぶ仕組みとする。スキー板にかかる体重や重心の角度、姿勢からコンピューターが自動で飛距離を計算するアプリを利用する。また、身体障がい者も参加できるように、車いす用のスキー板の高さを用意する。聴覚障がい者はVRの視覚で、視覚障がい者は手持ちのボタンの振動で情景が浮かぶように工夫し、バリアフリーへの配慮を欠かさない。

「VRの機材を活用して、本番さながらの雰囲気を出せる。」その場でしか体験できないという希少価値を生み出し、来場客数が見込める。また、スキーは得手不得手が分かれるスポーツであり、スキーの競技人口は減少傾向にある。スキーが苦手な人、またスキー未経験者でも「スキージャンプをしている感覚」に浸ることができ、特別な体験を味わえる。

また、本大会は「参加する」だけでなく、「見る」と「支える」の観点からも充実を図る。「見る」の観点からは観客の動員、「支える」の観点からは大会設営・準備に係る雇用の創出やeスポーツ指導者への指導機会の提供を考えている。将来的には、キッチンカーを会場に誘致し、「食」と「人」との交流の場を構築したり、スキージャンプ以外の競技科目を充実させたりすることを検討している。

四 具体的な数値計算と将来性

1 e スポーツ実施のために必要な準備と経費

大スクリーン 100 インチ	4 台	800,000 円
VR の機材	2 台	100,000 円
スポーツアプリの開発	—	2,000,000 円
スキー板	2 つ	50,000 円
会場準備に係る人件費	30 人	150,000 円

補足：愛媛大学工学部の学生 5 名から、アプリ開発への協力を依頼済み。予算で足りない分について補填可能。

2 経済効果の算出

宿泊代、食費、土産代

	A	B	C
1		1 人当たり	250 人
2	宿泊費	8000 円（3 食付き）	2000000 円
3	交通費	上田駅から林間学校	125000 円
4	お土産代	50000 円	12500000 円
5	飲食代	33000 円	8250000 円

3 e スポーツ大会の開催による効果

【経済効果】

経済産業省が発表する資料によると、e スポーツによる経済効果は多岐にわたっており、本論文で取り上げている「地方創生」「クールジャパン」「国際交流」「共生社会の実現」以外にも、「経済の活性化」「新産業の創出」などの多角的な観点からの経済効果（表 17）が見込める。全国移住定住ネットワークの調査で、移住者が移住先を決める最重要事項は、雇用機会の有無と、魅力的な仕事が存在しているかということが分かっている。産業を活性化することは、人口減少を解決できる糸口となり、人口減少対策に貢献する。また、今年度に発表された第 4 次観光立国推進基本計画では、「持続可能な観光」と「消費額拡大」「地方誘客推進」の 3 点がキーワードとなっており、なかでも地方周遊の促進が重視されている。今後国が、地方周遊に関する施策立案を行う可能性は大いにあり、将来性が見込まれる。

【教育効果】

e スポーツのスキー競技を普及させることによって、資格は持っているものの教える機会を得ていない潜在指導者の雇用拡大につながる。加えて、指導者の増加によって部活動の外部委託を進めることができれば教員の負担を減少させることができ、教育効果と社会問題解決という二つの効果があると考えられる。地域密着型スポーツクラブが主導となって取り入れることで、現在教員への負担増加、長時間労働などの社会問題を解決する糸口になりうる。スキーの指導者資格を持っている人の数は、サッカーや水泳など全競技種目の中で続いて 7 番目に多く、潜在指導者が多いということが分かる。

また、インターネットや VR の技術に親近感を持つ契機を創出する。インターネットは勉強や生活面に悪影響を及ぼすという、いわばインターネットを「悪」と捉える時代は終わり、今ではタブレットで学習を進める ICT 教育を始め、インターネットを活用する時代へと移り変わっている。インターネットの活用には抵抗がある人々にとっては、e スポーツを通して、時代の変遷に適応するきっかけづくりを提供できる。時代の過渡期に、各世代間の認識の違いを埋める役割を担うことを期待している。

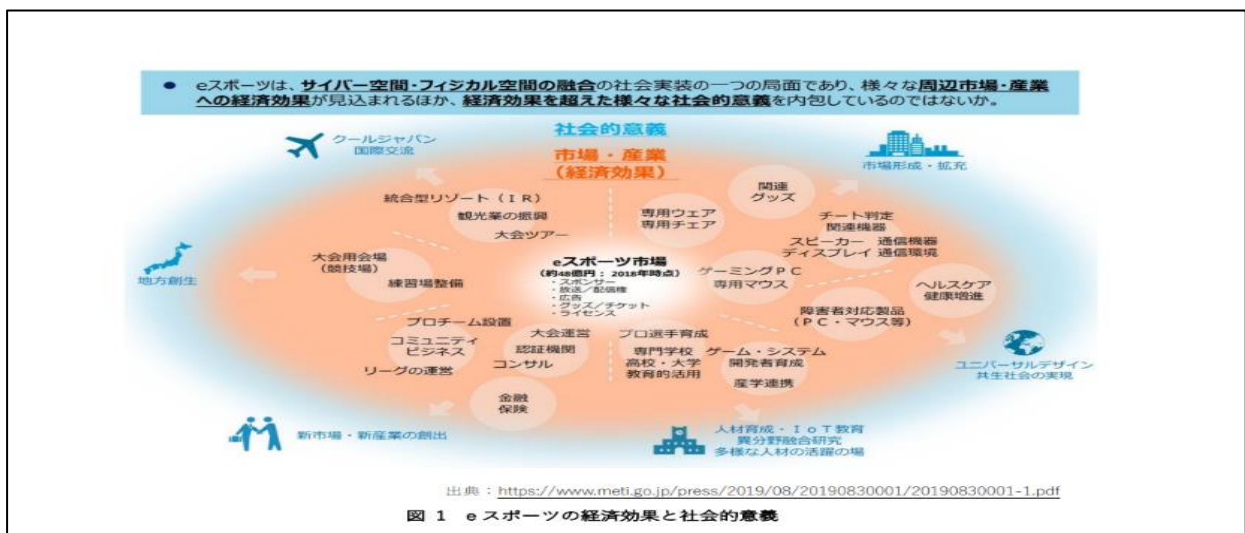


表 17 スポーツの経済効果と社会的意義（出典：経済産業省）

4 e スポーツ大会開催の持続可能性と将来性

菅平高原は長野県上田市の交流人口を増やす上で大きな役割を果たす可能性のある場所である。現状ではスキーやラグビー、サッカーなどの特定の分野での利用が多く、閑散期とピーク期の差が激しい。それに対して、e スポーツ大会は年齢や国籍、身体的な問題に関係なくプレイできる季節に関係なく開催することができる。場所を菅平高原に設定したことで、ブランド力による集客が見込まれ、e スポーツは世界的に人気が高まっていることから、菅平ブランドの世界への拡大が見込める。最終的な目標は、e スポーツ競技をオリンピック e スポーツシリーズ種目にすることであり、さらなるブランド力の強化を期待している。オリンピックブランドに関して、実例を挙げると、1998年の長野オリンピックの開催で、その一時的な効果だけではなく、発祥の地としてのブランド力を確立している。長野経済研究所の発表によると、「NAGANO」という名は、冬季スポーツの盛んな欧州を中心に現在も有名であり、現在もスポーツの NAGANO として名を馳せている。

5 前半部分のまとめと後半の概要

論文の前半では、「e スポーツ大会の開催」によって、言葉の障壁を無くした多文化共生社会の実現、菅平ブランドを世界に轟かせる、長期的な視点での持続的な交流人口の創出を目指した。このプランは、スキー種目の e スポーツ開催という新たな切り口から、まずは参加者・観客者の来場による交流人口の増加、次に菅平ブランドを波及させることによる世界的な知名度の向上を目指している。世界の人々の中に上田市に興味関心を創り出す「きっかけ」にとどまらず、実際に訪れたい、そして観光に来た際に満足してもらえるような観光プランを提案し、きっかけを確かな実績につなげたいと考えた。

そこで、私たちは「現代の観光需要を踏まえた観光プラン」を作成した。E スポーツ大会の開催とブランド力の波及が上田市を訪れるきっかけを創出し、観光プランで地域の魅力発信に努める。アフターコロナの観光スタイルに合わせ、日本人の「ウェルネス・田舎ツーリズムブーム」と外国人のインバウンドに焦点を当てたプランである。

論文の後半である次ページ以降では、国民・海外の観光ニーズに応える観光プランを提案する。上田市の観光産業の課題と、世間の観光需要を押さえ、持続的な観光を目指す。

五 観光需要の調査

1 「田舎」が注目を浴びている根拠

【海外】アメリカのニューヨーク・タイムズの特別版では、訪れるべき世界の52か所が紹介されている。最初に紹介されたイギリスのロンドンに続いて、岩手県盛岡市が紹介されている。訪日外国人向けアプリ「Japan Travel by NAVITIME」によると、2019年と2023年の1月～5月を比較し、訪日外国人数の伸び率トップ10は、北海道当別町や山形県高畠町などいずれも地方の自治体であった。29位には、長野県の天龍村がランクインしている。日常の暮らしや本当の日本を知りたいという目的のために地方を訪れる観光客が増加している。

【国内】 コロナ前後で日本国内の観光スタイルは大きく変化し、田舎志向が高まった。『アフターコロナは田舎の時代』と題目された観光新聞も発行された通り、感染リスクを押さえられる、喚起の行き届いた密を避けた場所が人気となった。自然の中でワンランク上の非日常を味わえる施設への興味や関心が高まっている傾向にあり、この傾向は今後も続いていくことが予想されている。

2 国内のニーズに応える観光プラン

ウェルネスツーリズムの気運が高まっている。観光庁の定義によると、ウェルネスツーリズムとは、「自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復、増進、保持する新しい観光形態」である。2022年にエクスペディア・グループによって行われた日本を含む17地域24,000人を対象とした「2023年国際旅行調査」によると、日本の対象者の47%が2023年の次の旅行は「ウェルネス」「保養」を中心にするとして主張しており、心身の健康を意識して休暇を過ごすことへの需要の高まりが見られる。

3 国外のニーズに応える観光プラン

ここで、インバウンド促進のための具体的なプランを策定する。私たちは、長期滞在型傾向のある欧米圏（フランス）、短期滞在型傾向のあるアジア圏（台湾）にそれぞれ聞き取り調査を行った。観光庁が発表するデータから、以下の特徴が挙げられるが、私たちは外国人の『生の声』を取材し、真のニーズに応えることを目指した。

【一般的な特徴】

欧米圏観光の特徴：バカンスが長く、旅行は長期間。歴史や日本文化体験は需要が高い。

アジア圏観光の特徴：リピーター率が高い。消費額が多い。高級志向。

4 外国人への聞き取り調査

欧米を代表してフランス人、アジアを代表して台湾人に聞き取り調査を行った。調査の方法としては、SNS を通じたアンケートと対面での聞き取りを併用した。母数は少ないものの、知人に絞って調査を依頼したため、信頼のできるデータを収集できた。

【フランス人聞き取り調査】担当：井上

氏名	日本に行ったらどこで何をしたいか	見たい景色や建物は何か	何を食べたいか	長野県を知っているか	長野県が舞台の映画やドラマを見たことがあるか
Adeomi	ジブリパーク、日光東照宮、長野県松本市	ジブリやアニメの聖地、新海誠監督のファン	日本食 寿司 ラーメン	はい 「君の名は」の聖地巡礼に行った	サマーウォーズ
Natalia	広島	原爆ドーム資料館に行きたい 日本史が好きなので、学びたい	お好み焼き もみじ饅頭	はい	サマーウォーズ
Nataly	広島・長崎	教科書に載っている原爆ドーム、実物を見たい	お好み焼き	いいえ	いいえ
Alexandra	USJ	クールジャパンを楽しみたい	お好み焼き たこ焼き	はい	サマーウォーズ
Judie	大阪	自然、大阪城	お好み焼き	はい	サマーウォーズ
Jasmin	京都	桜と紅葉、お寺、金閣、銀閣寺	未定	はい	サマーウォーズ

【台湾人聞き取り調査】担当：寺山

	日本に行ったらどこで何をしたいか	見たい景色や建物は何か	何を食べたか	長野県を知っているか	長野県が舞台の映画やドラマを見たことがあるか
雷少齊さん	富士山の周りでバイク旅行	富士山	お好み焼き	はい	サマーウォーズ、ゆるキャン△
黄姿菱さん	USJ	金閣寺	ラーメン	はい	君の名は
李佳珊さん	東京、大阪で買い物とおいしいものを食べる	東京タワー、浅草寺、富士山	焼肉、ラーメン、マフィン	はい	サマーウォーズ、君の名は
曾好安さん	ディズニー、USJ、飛鳥乃湯泉	お寺	かつ丼、GARIGUETTE	いいえ	サマーウォーズ、君の名は
林麗君さん	大阪、着物を着たい	USJ	ラーメン、大阪焼き、お団子	はい	ない
曾好蕨さん	歴史を感じる場所（ガイド付きツアー）、ディズニー	神社	和牛	いいえ	君の名は
顔益成さん	ディズニー	神社	ラーメン	いいえ	サマーウォーズ、君の名は

5 聞き取り調査の結果

具体的な都市名を挙げるとなると、東京・大阪・京都などの都市圏が目立つ。一方で、具体的に何をしたいのか、何をみたいかについて聞いた場合は、自然などの田舎志向が目立った。外国人に対して真の観光ニーズに応えるには、都市部より自然の豊かな地方への観光誘致が必要であり、そのためには外国人にもその土地・場所を知ってもらい、田舎地域の知名度を上げる取り組みが必要であるということが分かった。また、コロナ禍の自粛期間中における Net-flix や Amazon prime といったサブスクリプションの広まりを受け、アフターコロナに突入した今、ドラマや映画の舞台となった聖地を訪れてみたいと考える人々（表 18）が増えている。日本のアニメや漫画は世界で高い評価を得ており、聖地巡礼を観光資源とすることで観光需要が伸びることが予想されている。

【日本】 「この旅行先に行きたい」と思うきっかけ		
1	その街や地域を舞台にした ドラマや映画を観て	24%
2	SNSなどを通じ、街や観光地の写真を見て	23%
3	友人や家族に勧められて	16%

表 18 外国人が日本を訪れる動機（出典：エクスペディア・グループ）

六持続可能な観光プラン

1 別所温泉

私たちは、日本国民の「ウェルネスツーリズム」、外国人の「アニメツーリズム」「日本文化を体験したい」という双方の需要に応えることのできる「別所温泉」に着目した。

別所温泉は、創業が平安時代の 825 年と長い歴史を持つ信州最古の温泉である。温泉には、疲労回復効果と美肌効果があり、国内の観光ニーズである「ウェルネス」の需要に十分応えられる。また、日本食や浴衣が提供され、映画やドラマ・アニメのロケ地ともなっており、そして秋には紅葉が見られることから、「日本文化を楽しみたい」という外国人のニーズにも合致している。

2 スタンプラリー

聖地巡礼を促すことで発生する観光需要の持続性を目指したプランとして、スタンプラリーで上田市の多様な観光地を結ぶ政策を提案する。スタンプラリーという方法によって、思いがけない出会いがあり、知らなかった場所を知り、新たな興味を引き出すきっかけとなると考える。私達が提案するのは、聖地巡礼スタンプラリーとしての「スタンプウォーズ」である。スタンプラリーにおいて、結ぶ地点を広範囲にし、一度の旅行では回れないようにすることで、長期滞在やリピーターを獲得する。また、スタンプラリーは意図していなかった場所に訪れる契機を生み出し、新興のアニメや漫画も取り入れることで街全体の活性化に繋がると考えた。現在、最も観光客を集めている巡礼先は「サマーウォーズ」の巡礼地あるが、劇団ひとり監督の「青天の霹靂」や湊かなえ著「リバーズ」「贖罪」など若者に支持されている作品が多数あり、潜在的な需要があると推測している。1969 年の映画公開以降、続編も製作されるほどの人気を飾る「男はつらいよ」のロケ地もあり、過去の作品を現代に受け継ぐ歴史継承の役割も兼ねることができる。（表 22）

3 「スタンプウォーズ」ルール

- ・別所温泉にてスタンプカードを配布
- ・聖地にまつわるクイズを出題し、謎解きを実施
- ・必ず各エリア1つは訪れなければならない（スノーエリア・歴史エリア・中心市街地・温泉エリア・高原エリア）→市全体の活性化、魅力発信(表 23, 24)
- ・5 個以上のスタンプで、レイトチェックアウト無料券
- ・10 個以上のスタンプで、上田市の特産品をプレゼント
- ・15 個以上のスタンプで、次回宿泊時の割引券（ガラポン抽選で割引率が異なる）
- ・謎解きに正解できた人は、温泉のアメニティをプレゼント
- ・スタンプカードの有効期限は無し・スタンプカードの有効期限は無し



表 19 別所温泉・別所線界隈ロケ地マップ（出典：信州上田観光協会）

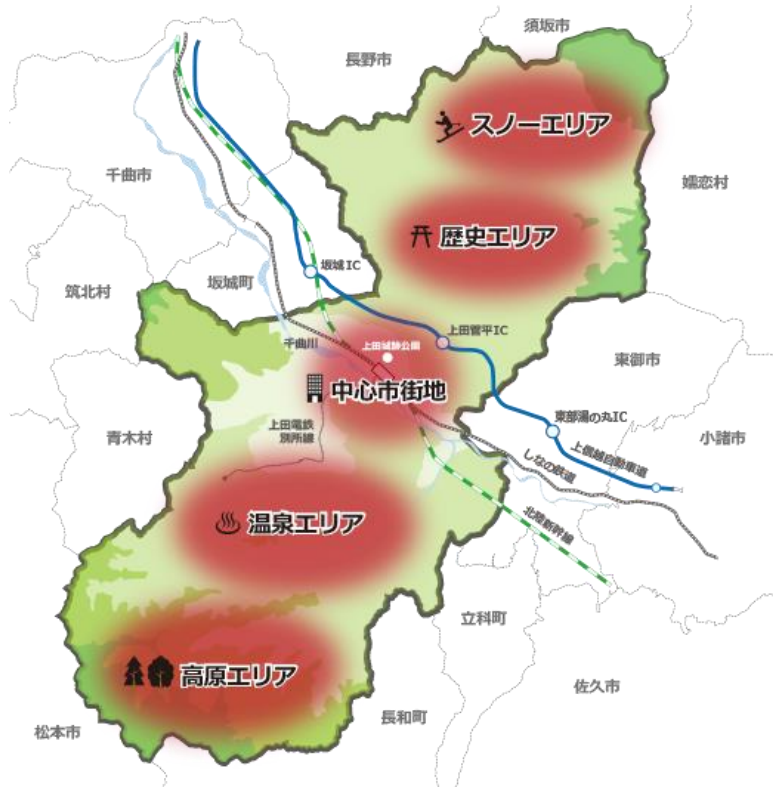


表 20 中心市街地ロケ地マップ (出典：信州上田観光協会)

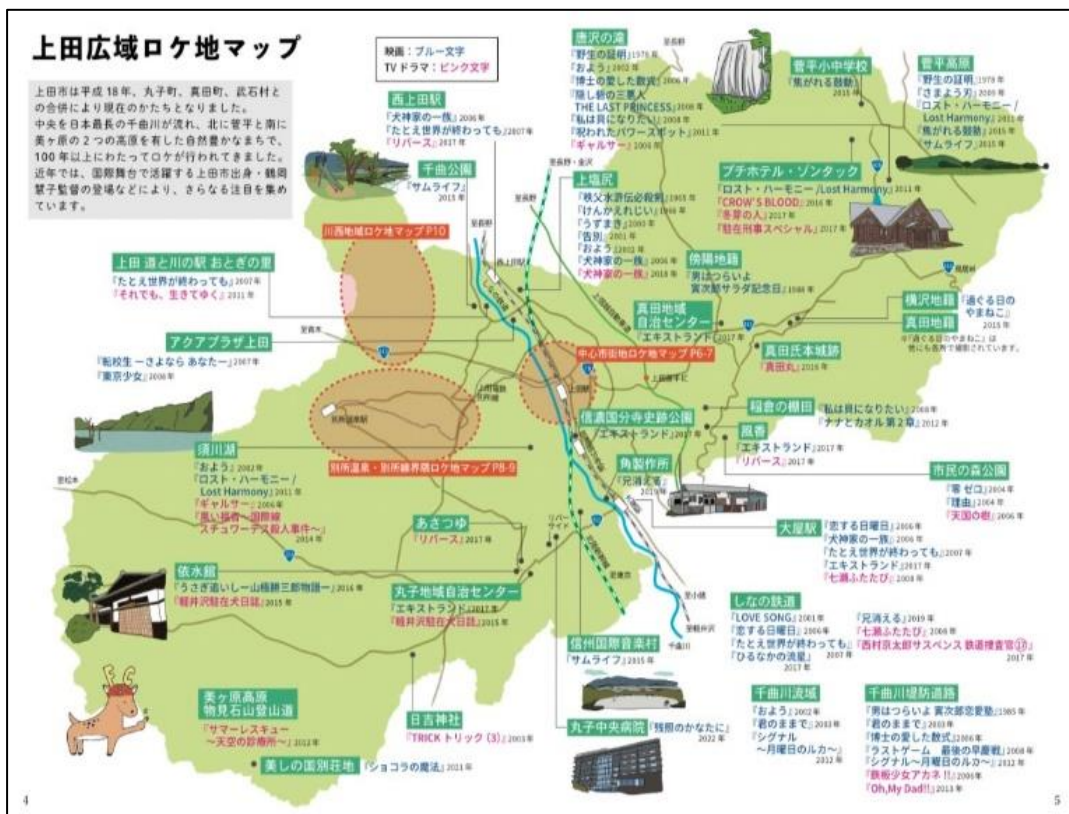


表 21 上田広域ロケ地マップ (出典：信州上田観光協会)

七 総括

私たちは、上田市民のブランド力を向上させ、地域の活力になることが期待されている観光資源：菅平高原に着目した。人口減少時代における持続可能なまちづくりのためには、性別や世代、言語の壁を超えた政策の実現が必要である。そこで私たち福井ゼミナールが提案したのは、e スポーツ大会の開催による訪問意欲の創出と旅行需要に合わせた観光プラン：スタンプウォーズである。

「VRを使ったe スポーツのスキー大会」の目的は、スポーツを通じて言語の壁、男女の壁、年齢の壁を越え、日本国民、そして世界の人々を対象として上田市の魅力を発信することである。短期的には、大会の開催が起因の交流人口の増加、最終的には、e スポーツ競技をオリンピックe スポーツシリーズにすることを目指し、持続的な交流人口の増加に寄与したい。このプランの舞台を、菅平高原の林間学校に設定したことにより、既にスキーで有名な菅平ブランドを世界に広め、インバウンド需要を狙うことも可能である。

e スポーツは今、世界中で急速に成長している分野である。そのため、e スポーツスキー大会は注目を集め、多くの参加者や観客を呼び込むことができると考えられる。また、e スポーツは言語や国を超えてプレイできるため、国際的なコミュニケーションと交流を促進する優れた手段となる。加えて、スポーツ人口の減少が問題視される現状において、e スポーツは新たなスポーツの形として注目されている。このプランを実行することで、スポーツの魅力を多くの人々に伝え、スポーツ人口の増加に貢献したい。

誰もが生きやすい社会の実現と健康都市上田の実現を目指す本プランは、「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画」の外国籍市民と日本人の相互理解につながるイベント開催回数や健康づくり活動に対する市民満足度という観点から、「第二次上田市スポーツ推進計画」の生涯スポーツの実現とスポーツ施設の整備、スポーツを通じた地域づくりと交流拡大の観点から KPI 目標値を達成する。

また、市の目標だけでなく、世界的な基準である SDGs の目標を達成することもできる。SDG の第 3 の目標「すべての人に健康と福祉を」、第 4 の目標「質の高い教育をみんなに」、第 11 の目標「住み続けられるまちづくりを」、第 17 の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」、以上 4 つの目標の達成を可能にする。世界的な持続可能性を測る水準の「SDGs」の目標を 4 つ達成している施策であり、持続可能なプランであることを確信している。

これら一連のプロジェクトの実施によって、コミュニティの輪の拡大及び、交流人口増加の実現が見込まれる。そして、上田市が高齢者や障がい者、外国人など、潜在的な能力を発揮しきれていない人々の「希望」となり、ブランド力を推進することによって上田市全体の活力の向上を願っている。

参考文献

オンライン上の資料は全て 2023 年 10 月 19 日確認

RESAS 「長野県上田市の人口推移」

[データ分析支援機能 / 人口対策に関する考察 / 人口推移 - RESAS 地域経済分析システム](#)

スポーツ都市宣言の制定について

<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/52493.pdf>

一般社団法人 信州上田観光協会

<https://ueda-kanko.or.jp/>

日本人の運動状況と病気・生活習慣病

<https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/kenkou-undou/undou-sibou.html>

経済産業省 スポーツの健康保持増進

[002_05_00.pdf \(meti.go.jp\)](#)

文部科学省 地域における障がい者スポーツの普及促進について

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/002_index/toushin/___icsFiles/afielddfile/2016/03/31/1369121_01_1.pdf

長野県スキー連盟 | Ski Association of Nagano

<https://www.ski-nagano.org>

観光庁統計

<https://www.env.go.jp/content/000067688.pdf>

第4次観光立国推進計画

[001299664.pdf \(mlit.go.jp\)](#)

国土交通省

<https://www.mlit.go.jp/common/001043229.pdf>

「長野冬季五輪から20年、五輪レガシーの継承を」 一般財団法人 長野経済研究所

<http://www.neri.or.jp/www/sp/contents/1522988109770/index.html>

「統計から見る長野県観光の現況」 長野県観光部山岳高原観光課

https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/kensei/soshiki/shingikai/ichiran/kanko/documents/2-04_genkyou.pdf

公共政策フォーラム2023in信州上田

<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/kikaku/88367.html>

「公共政策フォーラム 2023 in 信州上田の開催結果」 『日本公共政策学会 会報 No.75 2023 年 12 月』 3～5ページ

http://ppsai.jp/_src/2023/kaihou_75.pdf

2-8 (愛媛大学_福井ゼミナール) eスポーツでいい街づくり～誰一人取り残さない健幸都市を目指して～ [PDFファイル/1.75MB]

<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/55464.pdf>